



今年の夏、いかがでしたか？

会いたかった人とゆっくりおしゃべりできましたか？ちょっと足を伸ばしたお出かけもできましたか？  
たくさんのエネルギーをもらって、元気に過ごしていきましょう。

暦の上では秋。実りの季節、保育の充実期に入ります。園の行事や連盟の事業も次々に・・・。

準備は大変ですが、こどもの育ち、何よりも保育の意味、すばらしさを伝えるチャンス！ワクワクする気持ちで取り組んでいきましょう。

## ご参加ありがとうございました



○催事「まなつの夜のゆめのひととき」は、合わせて460名の連盟加盟園職員及びご家族のにおいでいただきました。パート1ではこどもたちの笑顔、それを見つめるご家族、保育者・・・穏やかな幸せな時間でした。いずれも最後は演者の大友剛さんと会場みんなで歌を歌いましたが、熱いものがこみ上げて、自然と涙が～。演者が選ばれた絵本は、ポジティブなものや、一人ひとりを大切に子どもたちや、子どもたちに関わる大人への思いがこもったものでした。こども家庭庁アドバイザーであり、こども家庭庁公認アーティストとして、こどもや保育、保育者に関する発言を続けていきます！と熱い思いもお話いただきました。

○幼児教育研修会 高知学園短期大学 山下文一先生（こども家庭庁上席調査員）

『保幼小の架け橋プログラムを考える～乳幼児教育と小学校教育の円滑な接続～』

※県の幼児教育研修会とは角度を変え、0歳から就学前までの保育の場における教育、思いをどのように小学校につなぐか。架け橋プログラムをどのように捉えるか丁寧にお話いただきました。

山下先生は、前回今回二回の保育指針、認定こども園教育保育要領改訂等に関わった先生です。「10年先を見通して（こんな社会にという願いをもって）前回、今回は、更に子どもたちが活躍する20年後を見通して改訂しました。」とお話いただきました。

求められるのは「組織マネジメント」「保育の質の向上」⇒「保育者が自信をもって保育を語る」保育は教科書がないため、保育者が子どもの姿からその思いや気づき、心の動きを瞬時に判断する奥の深い学びの場面の連続であり、保育者自身の人間性が最も大きな教育力であり、自分自身の人間性が問われるもの。子どもの心に寄り添うのであって、保育者の心にこどもの心を寄り添わせるものではありません。見る角度を変えることで、捉え方も変わります。常に子どもに温かいまなざしを向け、子どもの心の繊細な動きに気づけるゆとりを持っていきましょう。

社会に出て生きていく上において、学校を離れても学び続けねばなりません。【社会人基礎力】（経済産業省）

私たちは、その手本でもあるのです。

また、砂場や遊具、玩具の1つ1つの準備に私たちの思いを込めることの大切さを改めて学ぶことができました。

大友剛さんも山下文一先生も、子どもたちを取り巻く現状や現場の思いを私たちに変わって、こども家庭庁（国）へ伝えてくださる心強い仲間だと感じました。5月の研究大会講師の豪田トモ監督も子ども家庭庁でご活躍の馬場耕一郎先生（おおわだ保育園）も皆さん、昔からのお知合いとのこと。熊本市の保育者ともご縁ができ、「応援団が増えた！」ととても心強く感じました。（頑張る勇気が湧きますね。）

第34回九州ブロック保育士会セミナー報告（令和5年8月31日(木)16:30～18:30 アクロス福岡）

妊娠期からつながる乳幼児ケアの重要性～保育現場が子どもと家族の「安心・安全の基地」であるために～

鎌倉女子大 児童学部 児童学科 准教授 榊原 久子氏

・保育の場＝子どもを預ける施設から「子育てをシェアする拠点」へ

親となる人の生涯発達を支える場、子どもの最善の利益を保障、安全・安心の基地

↳子どもにとって、家族にとって

・子どもの安心・安全の基地として どの「みる」で関わる？・・・見る、観る、診る、看る

どの「きく」で関わる？・・・聞く、聴く

こどもの気持ちを観察からくみ取り言葉を添えることで応答性になる

・胎児期から3歳までのケアの質がヒトと社会の成長を左右する・・・誰でも通園制度の裏にあるねらい

ヒトの脳が育つ重要な時期・・・脳の発達に大切な「五感」

身近な人との触覚経験がもたらす効果

ふれあいあそびの中で分泌されるホルモン⇒安定

脳が発達するために必要な栄養素・・・酸素、タンパク質、ブドウ糖、アミノ酸、感覚情報（五感）

・令和の妊娠・出産・育児・・・多様化する育児期家族

周産期・育児臨床から⇒父母の本質的な困り感の原因は？

働く女性のキャリア保障・喪失と受胎リミットの葛藤、出産の高齢化と生殖補助医療の活用、極低出生体重児、医療的ケア児、医療的配慮児等の増加、育児モデルの喪失と意図しないマルチリートメント、産後の著しい孤立化と共同養育の崩壊、世代間連鎖・心身症・大人の発達障害、ジェンダー/多様な性への理解と人権教育としての包括的性教育

「子育て支援」から「伴走型支援」へ

「生活と育児の機能支援」「関係性の発達支援」へ

- ・子どもと関わるスキルの獲得
- ・子どもを中心とした生活を組み立てる
- ・子どもの育ちを知る・理解する
- ・親としての育ち（自身や肯定感育ち）を支える



大切なのは生活の動線上にこれらの支援の「時間・場・機会・環境」が親子（家族）のために保障されていること

〈今後の保育士会・ブロック保育士会研修〉

◎11月9日(木) 国際交流会館ホール 主任保育士・主幹保育教諭、中堅保育者研修

「保育現場で守るいのち」子どもの命と心、愛着形成（四国こどもおとな医療機構小児科 木下あゆみ氏）

◎12月13日(木) オンライン 障がい児研修

「その子らしさを大切に作る保育」～自分にOK!といえる子どもに育つ～（仮）

（明星大学教授・こども家族早期発達支援学会会長 星山麻木氏）

◎1月 オンライン 保育の安全研修

「保育者を守る」～保育の安全と保護者とのコミュニケーション～（保育の安全研究センター 掛札逸美氏）

○コーチング（東・西）「保育者の資質・能力向上」

○公開保育（東）

○以上児保育（西・南）「幼児教育・保育の魅力、やりがい」を考える

○くらき永田保育園視察研修（中）

○事故予防と応急処置（北・中）実技

○わらべうた（南）

○乳児保育（北・中）「子どもの発達に応じた保育と接し方」



第28回 わんぱくまつり 10月15日(日)9:40～15:00 立田山野外保育センター（雑草の森）

保育者の魅力発信の機会でもあります。保育者の得意なこと、日頃の学び、保育実践をご参加の皆様にお届けします。（保育の学生さんや潜在保育士の皆さんが新しいなかまになってくださると嬉しいです！）